

# PRART 株式会社 プラルト

小さな改善から始めることを  
お勧めします。

取締役  
企画営業部  
営業統括部長  
渋谷 恒雄 氏

現在、企業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は極めて重要なテーマとなっています。今回はお客様が求めるものを突き詰めた結果、DXにたどり着き、その歩みは小さなDXからの取り組みが推進に至っている株式会社プラルト様にお話をお聞きしました。

## 1. DX推進を始めた経緯について教えてください。

**渋谷取締役** 弊社は20数年前からデジタル化に取り組んでおり、インターネットが普及し始めた頃にいち早くWeb制作に参入しました。当時は「デジタル化」や「DX」という言葉は一般的ではなく、我々も手探りで進めていましたが、この経験が今の事業の基盤となっています。弊社は当初は印刷業が主力で、私自身もデザイン職を中心に活動していました。インターネットの普及とともに、事業の方向性が変わり、お客様のニーズを突き詰めた結果、DXを推進していることになりました。

## 2. 御社がインターネット分野に参入した経緯についてお聞かせください。

**渋谷取締役** 最初は手探り状態でした。ホームページ制作のニーズが高まりつつありましたが、積極的に取り組んでいる企業は少なかったです。弊社は少人数でスタートし、お客様のニーズに応える形で事業を進めました。特にデザインにこだわり、クオリティの高いWebサイトを作成することに注力しました。その結果、徐々に評判が広がり、Web制作の依

頼が増えていきました。また、デザインアワードに応募して自社のプロモーションにも力を入れ、そうした活動が認知を広げるきっかけになったと感じています。インターネットの普及に伴い、デザインの重要性もますます増していった時代でした。

## 3. デジタル化を進める中で、社内や顧客とのコミュニケーションで特に工夫された点はありますか？

**渋谷取締役** 重要だったのは、コミュニケーションのデジタル化です。社内ではチャットツールを導入し、各部門間での情報共有を効率化しました。これにより、従来のように全社員が集まって打ち合わせをする必要がなくなり、時間の節約とともに、業務のスピードが飛躍的に向上しました。しかし、デジタルツールに依存しすぎるとコミュニケーションが希薄になるリスクがあるため、毎日15分程度の生産会議をリアルに行い、直接顔を合わせる機会を確保するようにしています。このような取り組みは、単なる効率化を超えて、組織全体の一体感を維持するためにも非常に重要だと感じています。

#### 4. DXの導入で気を使われた点は何ですか？

**渋谷取締役** 社員の意識改革が最も大きな課題でした。特に初期段階では、新しいシステムへの抵抗感を無くしていくことです。まずは部門長や中間管理職に新しいシステムを試してもらい、その利便性を実感してもらった上で、徐々に現場に浸透させていきました。段階的に導入を進めることで、社員たちも新しいツールを自然に受け入れるようになりました。業務フローをシステムに合わせるのではなく、システムを業務フローに合わせてカスタマイズする方針を取りました。これにより、社員が無理なく新しいツールに適応でき、DXの効果を最大限に引き出すことができました。

#### 5. カスタマイズの具体的な方法について教えてください。

**渋谷取締役** 社内で使用しているオーダーシートをデジタル化する際、元の紙のフォーマットをそのまま再現する形でシステムを構築しました。これにより、社員が既存の業務フローを維持しながらデジタル化に移行でき、ストレスなく新システムを導入できました。社内にはシステム開発に強い人材がいたため、その社員が中心となり、内製化ができ必要なカスタマイズを迅速に行ってくれました。自社に最適なシステムを内製化で構築できたことが成功の大きな要因です。導入後も定期的に見直し、必要に応じて改善を重ねることが重要です。弊社では、小さく始めて少しずつ改善を重ねるアプローチを取りました。この段階的な進化が、最終的には大きな効果をもたらしました。業務効率化やコスト削減だけでなく、顧客満足度の向上にも繋がっています。

#### 6. DXを進めるにあたって、他に注意された点がありますか？

**渋谷取締役** DXの推進では、単に業務効率化を目指すだけではなく、社員一人ひとりが新しいシステムを「使いたい」と思う環境を整えることが大切です。そのためには、システムの利便性を社員に実感

してもらうため、丁寧な説明やトレーニングが不可欠です。また、デジタルツールを使いこなすことで、コミュニケーションが希薄にならないよう、リアルな対話の機会も大切にしています。特に初期段階では、社員の不安を取り除き、安心して新しいシステムを使ってもらうことが重要です。システムは単なる効率化ツールではなく、社員の仕事をサポートするパートナーとして位置づけるべきです。

#### 7. 最後に、DX導入を考えている企業に向けてアドバイスをお願いしますか？

**渋谷取締役** DXは無理に進めるものではありません。まずは自社にとって本当に必要な部分だけを取り入れることが大切です。例えば、業務フローの一部をデジタル化するだけでも十分な効果が得られます。大規模なシステム導入を考える前に、まずは小さな改善から始めることをお勧めします。一気にDX化しようとするとう業務フローを大幅に変えないといけなくなる場合があります。デジタル化を進めることで得られる時間やリソースをどう活用するかが重要です。それが最終的に企業の成長に繋がります。DXはツールではなく、手段です。何を実現したいのかを明確にすることが成功の鍵です。目的を見失わないことが、DXの成功に繋がると感じています。目的は業務効率化や顧客満足度の向上にあります。私たちも今後も進化を続け、さらにお客様のニーズに応えていきたいと思っています。DXは絶え間ない進化と適応が求められる分野です。私たちも、その変化に恐れず、積極的に取り組んでいきます。



会社名：株式会社プラルト

所在地：松本市笹賀5985

代表者：代表取締役社長 犬飼 香代

営業内容：ブランディング、Web制作、グラフィックデザイン、映像制作、マーケティング、商業・出版印刷、特殊印刷、広告・イベント

URL：[https:// www.prart.co.jp/](https://www.prart.co.jp/)

取り組み：

・長野県SDGs推進企業 他9認証・認定



【DX推進に関するお問い合わせ】松本商工会議所DX推進部 TEL：0263-32-5350 Mail：mccidx@mcci.or.jp